

学校だより

11月号

筑波大学附属大塚特別支援学校
2013年11月20日発行



大塚祭に向けて

2学期のメインイベント、大塚祭まで秒読み体制になりました。昨日は予行練習がありました。どの部も本番さながらの緊張感でステージ発表に臨みました。各ご家庭に「みどころガイド」が配布されていると思います。「かわいらしさ全開」の幼稚部、『協力』をテーマに世界を巡る小学部、格調高く個性豊かに奏でる中学部、そして、東北復興をテーマに学習成果を披露する高等部。「日頃の学習の積み重ねを発表する」という大塚祭のねらいの下、幼児児童生徒の持てる力を十分発揮するよう各部とも工夫を凝らしています。保護者の皆さまには、衣装、小道具等にご協力いただき、ありがとうございます。今年のスローガンは「みんなが楽しい大塚祭 心をこめてがんばろう」。みんなが楽しく頑張る姿をどうぞ大きな拍手で応援して下さい。



学校評価アンケート ご協力ありがとうございました

今年度も、学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。昨年度より回収率は少し上がり約60%となりました。学校評議員さんからは「80%以上をめざしたいですね」との言葉をいただいています。アンケート項目は経年比較のためにここ数年同じものを用いてきました。皆さまのご意見をいただきながら、次年度に向け設問や回収方法について検討していきたいと考えています。



11月12月の行事

- 11月2日(土) 教員免許状更新講習
- 19日(火) 大塚祭予行練習
- 23日(土) 大塚祭
- 27日(水) 乳幼児教育相談
- 29日(金) 避難訓練
- 12月3日~5日 入学選考
- 6日(金) 各部行事
- 13日(金) 授業研究(中高)
- 16日(月) ミニ避難訓練
給食終了
- 20日(金) 2学期終業式
PTAお楽しみ会

交流及び共同学習

今年度、文科省よりインクルーシブ教育システム構築モデル事業を受託し、交流及び共同学習に取り組んでいます

小学部は、筑波大学附属小学校と10年ほど前から保谷教場（附属小学校が有する農場）での芋掘り交流（6月はじゃがいも、10月はさつまいも）を続けてきました。現地では一緒に芋掘りをした後、ゲームやダンスをしたり、お芋料理の試食会（掘ったお芋を使って附属小の保護者がカレーを作ってください）をしたりして交流しました。大塚祭の練習の様子も見に来てくれました。

また、今年度は東京学芸大学附属竹早小学校と音楽、造形の交流授業も行っています。造形交流には日大芸術学部の学生さんが協力してくれました。



体育館での造形→



←附属高校文化祭ステージ

中学部は筑波大学附属高校と交流をしています。9月に行われた附属高校の文化祭では、作業製品の販売と生徒会委員の皆さんとの合同ステージ発表を行いました。それに先だって、7月には合同練習、風船バレー交流を行っています。詳しくはHP中学部のトピックスをご覧ください。



高等部は筑波大学附属坂戸高校と交流を行っています。今年度は10月23日に訪問し、トランプや風船バレーでレクリエーションした後、坂戸高校の生徒とともに校内清掃活動を行いました。

幼稚部は11月26日にお茶の水女子大学附属幼稚園と交流が予定されています



Q & A コーナー

Q: インクルーシブ教育とは、なんですか？

A: 原語「inclusive」には包含する、包み込むの意味があり「インクルーシブ教育」においては多様なニーズを持つすべての子どもが排除されることなく教育の対象となります。平成24年7月23日、中央教育審議会より「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)」の報告がなされました。その中では「同じ場で共に学ぶことを追求すると共に、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に答える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある『多様な学びの場』を用意しておくことが必要である。」と述べられています。この議論の背景には、先日、衆議院で批准された「障害者権利条約」があります。「障害者権利条約」が謳う「共生社会の形成」をめざすための法整備に向けて教育の理念が整理されたといえます。

詳しくは文部科学省HP http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044